

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年4月8日（火）

2 確認箇所

- (1) 日本海溝津波対策防潮堤（1～4号機東側、4号機南側）（図1）
- (2) 免震重要棟集中監視室（図1）

3 確認項目

- (1) 日本海溝津波対策防潮堤設置の状況
- (2) 2号機使用済燃料プール温度監視状況

4 確認結果の概要

(1) 日本海溝津波対策防潮堤設置の状況

令和2年4月に内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が日本海溝津波の発生が切迫していると評価したことを踏まえ、東京電力は、T.P. 11.8m規模と想定される日本海溝津波に対する備えとして、令和3年6月21日から日本海溝津波対策防潮堤の設置を進めてきた。

令和6年3月15日に日本海溝津波対策防潮堤の設置工事が完了したことから、設置状況の確認を行った。（前回確認：令和6年4月17日）

（1～4号機東側）

- ・確認した範囲で防潮堤及び路面に亀裂や陥没はなかった。（写真1）
- ・防潮堤の高さを上回る津波が襲来した際に防潮堤内側の海水を排水するフラップゲートにおいて、フラップゲート下部のコンクリート施工が完了していた。（写真2）
- ・4号機タービン建屋東側において、乗入道路が完成していた。（写真3）

（4号機南側）

- ・前回確認時は防潮堤の上部道路の一部に未舗装の場所があったが、今回確認時は舗装が完了していた。（写真4）

(2) 2号機使用済燃料プール温度監視状況

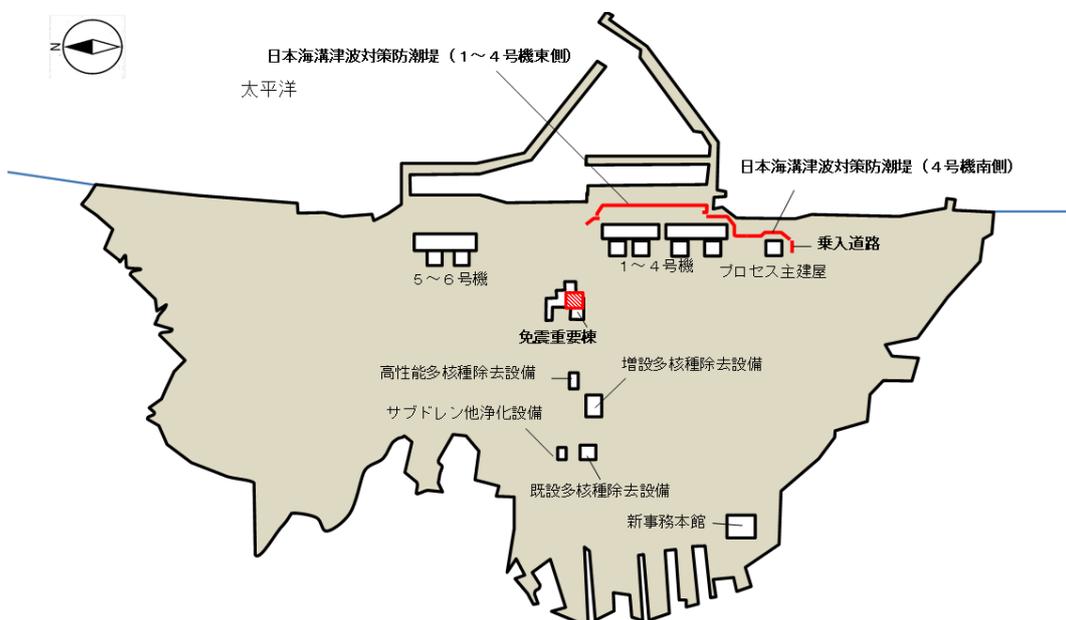
令和6年8月9日に発生した2号機使用済燃料プールのスキマサージタンクの水位低下事象^{*}に伴い、2号機使用済燃料プールの冷却設備を停止させることにより、従来行ってきた方法による使用済燃料プール水温の監視ができなくなった。その後、令和6年11月14日に漏えい箇所の修復工事が完了し、令和6年11月25日に冷却が再開された。

本事象を踏まえ、2号機使用済燃料プールの水温及び水位の監視状況を確認した。（前回確認：令和6年8月28日）

- ・水温計の数値及び水位計の設置状況を、免震重要棟集中監視室にある端末を使って確認した。（写真5）
- ・確認時、使用済燃料プールの水温及び水位に異常は認められなかった。

※ 2号機使用済燃料プールスキマサージタンクの水位低下事象

令和6年8月9日午後1時5分、スキマサージタンク（使用済燃料プールが満水であることを確認するためのタンク）の水位レベルが低下していることを東京電力社員が確認。原因調査のため同日午後4時36分に循環冷却を停止。その後の調査で使用済燃料プール冷却浄化系のポンプと熱交換器を設置する部屋において水の漏えいが確認された。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1-1）
日本海溝津波対策防潮堤の状況
（1～3号機タービン建屋東側、海側から撮影）



(写真1-2)
乗入道路の状況
(1~3号機タービン建屋東側、
海側から撮影)



(写真2-1)
フラップゲートの状況
(令和6年4月17日撮影)



(写真2-2)
フラップゲートの状況
(令和7年4月8日撮影)
※ゲートは常時閉状態
万が一津波が防潮堤を越流した
場合はゲートを開状態にして排
水する。



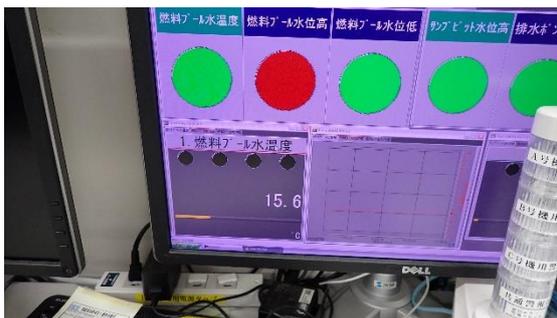
(写真3)
4号機タービン建屋東側の乗入道路
の状況



(写真4)
4号機南側防潮堤上面通路の舗装状況



(写真5-1)
水位計設置状況 (現在値: 約540mm)



(写真5-2)
2号機使用済燃料プール水温の状況 (現在値: 15.6°C)

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。